

令和7年度 第2回高松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年11月19日(水) 14時00分～14時48分

2 場 所 高松市役所 114会議室

3 出席者	高松市長	大西 秀人
	高松市教育委員会教育長	小柳 和代
	高松市教育委員会委員(教育長職務代理者)	塩見 勝彦
	高松市教育委員会委員	小方 朋子
	高松市教育委員会委員	富家 佐也加
	高松市教育委員会委員	和泉 憲
	高松市教育委員会委員	谷 正子

4 事務局

(教育委員会)

教育局長	一原 玄子
教育局次長総務課長事務取扱	黒川 桂吾
教育局次長生涯学習課長事務取扱	佐々木 啓明
教育局学校教育課長	岡内 秀寿
教育局保健体育課長	河田 哲也
教育局総務課長補佐	西山 周吾
教育局学校教育課長補佐	綾田 恵子
教育局保健体育課長補佐	三浦 めぐみ
教育局総務課総務係長	唐渡 みどり
教育局総務課総務係主事	太田 真緒

(政策局)

政策局長	蓮井 博美
政策局次長政策課長事務取扱	長谷山 隆義
政策課長補佐	好井 智哉
政策課企画員	西村 亜紀

(創造都市推進局)

創造都市推進局長	次田 吉治
創造都市推進局参事	辻下 美智子
創造都市推進局文化・観光・スポーツ部長	高本 牧男
文化芸術振興課長	平井 省三
スポーツ振興課長	溝渕 雅春
文化芸術振興課長補佐	本多 広実
スポーツ振興課長補佐	西山 毅

5 傍聴人 5人

6 協議事項

部活動の地域展開に向けた体制づくり～子どもたちの成長を地域全体で支えるために～

7 議事の経過

【開会】

【市長挨拶】

○ 市 長

それでは、私の方で進行させていただく。

本日は、今年度第2回目の総合教育会議となるが、「部活動の地域展開に向けた体制づくり～子どもたちの成長を地域全体で支えるために～」について協議を行う。

教育局保健体育課から説明をお願いします。

【議題】

○ 事 務 局（教育局保健体育課長）

（「部活動の地域展開に向けた体制づくり～子どもたちの成長を地域全体で支えるために～」説明。）

○ 市 長

ただ今の説明を受け、御意見、御質問等はあるか。

○ 委 員

部活動の地域展開が、将来のまちづくりや、中学生のシビック・プライドの醸成につながるということは、非常に嬉しいことである。

また、これによって教員の負担が少しでも減るのであれば、よりありがたい。

実施に当たっては、円滑な移行が大事である。可能であれば、一部の地域での先行実施や、段階的な展開を考えてもよいと思うが、いかがであるか。

○ 事 務 局（教育局保健体育課長）

来年度、モデル事業として、複数の学校で先行実施をし、課題を洗い出しながら、令和9年度から本格的に実施できるようにしていきたい。

○ 市 長

それは、選ばれたモデル校の全部活動が地域展開するのか。それとも、モデル校の一部の部活動だけが地域展開するのか。

○ 事務局（教育局保健体育課長）

色々な方法があるが、特定の学校のみモデル校にするのではなく、競技ごとに分けて、行うことを考えている。

○ 委員

中学生は、地域活動から離れ、地域との接点が無くなってしまいう年代でもあるので、部活動の地域展開でこれまで無かった接点が作れることは、非常に重要なことである。

ただ、中学校に部活動があるという、これまで当たり前に考えてきた実態があるので、実際に令和9年度から移行するということであれば、現在小学生のお子様やその保護者の方に対して、広く、できるだけ早く説明を行うことが重要だと考えるが、どのような予定をしているか。

○ 事務局（教育局保健体育課長）

第一に、現在の6年生や5年生の児童及びその保護者が、活動の地域展開に関する情報を必要としていると考えられるが、現在の6年生が中学校に進学する際に行われる周知会で、説明を行えるようにしていきたい。

市民の方々に対しては、ホームページを活用しながら、どのような方向で部活動の地域展開が行われているかについて、広く公表できたらと考えている。

○ 委員

現在の6年生より下の年代については一般の市民と同じように説明をする予定か。

○ 事務局（教育局保健体育課長）

6年生だけではなく、5年生、4年生も今後関わってくるため、小学校の方にも丁寧に説明を行いたい。

○ 市長

ホームページを見に来る方はほとんどいないと思う。モデル事業を行うなら、対象者が直接説明を聞けるような形を取った上で、周知に努めた方が良いと思う。

○ 委員

現在、学校によって部活動数が違う中、どの学校の生徒も多種多様な活動に参加できる機会を与えてくれるということは、すごく良い形の活動になるのではないかと思う。

ただ、これまでのような、授業が終わったらそのまま学校に残って部活動をしていた形式とは異なり、自分がやりたい部活があれば、そこまで移動しなければいけない。生徒がどのように移動するのか、それに関して保護者の負担が増えることがないのかは、保護者が気になるところである。

また、移動により、活動時間が後ろに押されるのではないかと思います。現在塾通いの生徒が増えていることもあり、放課後の時間的な面での過ごし方についても、保護者は気になるのではないかと。

6年生に対する周知会の際に保護者から説明を求められるであろうことに関して、具体的な施策はどのようなになっているのか。

○ 事務局（教育局保健体育課長）

交通手段や移動手段については全国的に課題となっているが、現時点では、保護者の送迎がなければならないということはまだ考えておらず、徒歩や自転車等、自力で移動できる範囲内で児童生徒が集まるような、拠点校方式でクラブ活動を行うことを想定している。

○ 委員

教職員、生徒、保護者が Win-Win になれるような形で、できるだけ具体的に考えた上で説明していただけたら、保護者の方もよく分かるのではないかと思います。

○ 事務局（教育局保健体育課長補佐）

活動場所や詳細についてはこれから決めていく段階であり、保護者の送迎の可否や活動の時間帯についても、各クラブ活動によって変わってくると思う。部活動のように一律にこの時間でやるという形ではなく、各区域のクラブの方で活動時間を設定するようになるため、時間帯が今より遅くなる可能性が全くないとは言えない状況である。

○ 委員

部活動の地域展開は、中学校教育の大転換点だと思う。部活動のイメージを変えていかなければいけないが、祖父母世代まで現在の部活動のイメージがある。毎日同じ種目をする、中学校の先生が全部責任を持ってくれる、無償である、親の負担がない等、これらのイメージが全部変わっていかねばいけないのではないかと思います。そして、中学生のエネルギーをいかに多様に使ってもらうか、放課後や休日の時間をいかに有意義に使ってもらうか、中学生の持つ大きなエネルギーをシビック・プライドにどのように活用していくか、というふうになっていけばと思う。

ただ、それには少し時間がかかる。

今までの部活動も素晴らしいことだったが、持続可能でないというデータが出ている。部活動という言葉自体が変わっていかないといけないと思う。

また、指導者の発掘や開拓が重要である。総合的な学習の時間で知り合った地域の方、職場体験活動で親しくなったところのボランティア、お祭り、後継者がいない伝統工芸等に、中学生がいかにアクセスできるかについて、環境を整えると良いのではないかと思います。

○ 委 員

部活動の地域コーディネーターを置かれる予定はあるか。

○ 事 務 局（教育局保健体育課長補佐）

部活動コーディネーターについては、本年度 2 名の方に委嘱しており、今後も事業を進めていく上で必要だと考えている。

○ 委 員

学校と部活動コーディネーターの関係が非常に大事だと思うが、その関係についてはどのようにお考えか。

○ 事 務 局（教育局保健体育課長）

部活動コーディネーターに学校の情報を吸い上げていただきながら、地域と指導者を連携していただき、地域クラブ活動をどのようにしていくかを検討していただこうと考えている。

○ 委 員

中心地以外の、特に高齢な年齢の方がいらっしゃる地域で、指導者を探すのは大変難しいと思う。学校自体の規模もすごく小さい。そのような地域を置き去りにしないでいただきたい。

また、文化部についても、指導者が非常に少ないため、置き去りにせずに、運動部と同じように対応していただきたい。

○ 市 長

特に郊外において、指導者が見つかりにくいところについてきちんと対応していただきたいところである。

○ 教 育 長

部活動の地域展開は全国的な動きであるが、全国の他の市町の動きを聞くと、それぞれ市や町の実態に応じて様々な方法で地域展開を計画しており、方法は多様だという印象を持っている。高松市においても、教育委員会内、部活動検討委員会等で各教育委員の御意見を伺いながら、今回の方向性について決定してきた。

これまでの部活動は、学校教育の一環として、教員の熱意と努力によって支えられてきた。教員自身も子どもたちも、かけがえのない経験を積んだことは確かだが、部活動のあり方を再度見直し、今後、持続可能な形にする時期が来ている。

部活動の地域展開は、そうした課題に対応しつつ、一方で、子どもたちの学びと育ちをより豊かにする可能性も秘めている。そのためにも、小・中学生、保護者の方々や地域の皆様に、本市の部活動の地域展開の方向性や趣旨について、十分に御理解いただく

必要がある。これまでの部活動の形を一度白紙に戻し、新しい形で作っていくこと、学校教育の枠を超え、地域全体で子どもの放課後の時間を支えていき、社会教育の広い視野で、子どもたちのやってみたい、続けたいと思うような活動を展開していくということを、皆様に御理解いただく必要がある。

教育委員会としても、活動場所の確保、指導者の育成、クラブの認定制度、保護者への周知等、具体的な制度面の整備を、これから進めていこうと考えている。そのためには、今後、教育委員会だけでなく、市長部局のスポーツ振興課や文化芸術振興課のほか、様々な課の御協力をいただきながら、市全体で地域展開について検討していく必要がある。

様々な御意見をいただきながら、子どもたちにとって最も良い方法を考えていきたい。今後とも御協力をお願いする。

○ 市 長

今後、部活動の地域展開という形で新たな取組が始まるということを、市民の皆様、特に生徒の皆様に、魅力があるものとして伝えることが一番重要である。そのためには、モデル事業の実施において、「いいことをやっているんだ」、「うちも早くやってほしい」と思われるように、展開しなければいけない。

そのためには、神戸市の「コベカツ」の例を出しながら、手上げ方式で、より多くの文化活動やスポーツ活動で、面白いことをやりたいと思う人に手を挙げていただけるように周知をし、子どもたちにわくわく感を与えることが大事ではないかと思う。

その部分について、考えて進めていただきたい。

御意見、御質問はあるか。

○ 委 員

生徒の社会参画の機会という点で、ボーイスカウト、ガールスカウト活動は、現在は統合されて色々な校区の方が一つの団に所属している。この点においては、モデルになりうると思う。

このような活動との連携について考えてはどうか。

○ 事 務 局（教育局保健体育課長）

ボーイスカウトや様々なクラブ活動にも手を挙げていただけるよう、募集要項が決まり次第、できるだけ早く御案内をかけたい。ぜひ、募集した際には、いち早く手を挙げていただき、モデル的にやっていきたいと思う。

○ 市 長

部活動の地域展開の議論に当たり、最終的には全庁的な体制を考えていきたいということであった。部活動の継続が困難になる中で、地域クラブ活動への転換は、子どもたちの多様な学びの場づくりだけではなく、地域の活性化のためにも、非常に重要な意

義を有している。

教育委員会だけでは学校の延長となる。体制を大きく切り換えていくため、全庁的な体制を組んでいきたいと思う。指導者の確保や子どもたちの安全のための体制づくりは、教育委員会だけでは難しいことは明確である。地域の様々な課題をクリアするためにも、全庁的な連絡会を立ち上げる必要がある。

教育委員会と市長部局が連携をし、本市としての地域クラブ活動の受け皿づくりを推進することで、子どもたちの成長と豊かなまちづくりにつながるような地域展開にしていきたいと思う。

庁内連絡会については、現在、元となるような会議はあるのか。

○ 事 務 局（教育局保健体育課長補佐）

現在のところ、関係各課とその都度協議しており、定期的な会議は設けていない。今後考えていかなければいけない。

○ 市 長

令和8年度からモデルで実施していくが、スケジュールが詰まっているため、できるだけ早く、今年度中には庁内連絡会を立ち上げ、来年度以降の展開について十分協議の上、進めていただきたい。そのためには、市長部局の関係局においても、それぞれが自らの仕事として地域展開に当たっていただきたい。

○ 教 育 長

高松市では、教育委員会においても、子どもたちにシビック・プライドを身に付けてもらうために取り組んでいる次第である。

秋になり、色々な地域でお祭りが開かれており、地域の方々にも、この方向性を理解していただいて、小・中学生を今後のお祭りを支えていく後継者として育成して下さっているところが増えている。そのような中で、小学校では総合的な学習の時間を利用して地域とつながり、子どもたちの地域の担い手になる意欲を高めるような取組を進めてくれているが、中学校については、放課後も休日も部活動で忙しいことから、声をかけることを遠慮しているところもあったと思う。今回、地域展開に取り組む中で、中学生は体格的にも大人に近づき、考え方も非常にしっかりしてくる時期であるため、地域の方々には積極的に中学生に声をかけていただき、中学生にも地域の後継者として活躍できる場を設定していただきたい。

○ 市 長

十河校区周辺では子どもたちが獅子舞を行っている。「コベカツ」の中でも獅子舞があった。高松でもぜひ地域クラブ活動として行っていただきたい。

それでは進行を事務局にお返しする。

○ 事務局（教育局長）

教育委員の皆様方には、総合教育会議に御協力いただいたこと、心よりお礼申し上げます。今後とも、御協力賜るようお願い申し上げ、閉会とする。